

《目的》 スーツスタイルはサラリーマンにとって欠かせない服装スタイルである。このスーツスタイルにも最近、ソフトスーツにみられるように様々な変化が生じてきている。そこで、日常スーツを着用している社会人男性がスーツをどのようなイメージでとらえ、どのような意識をもっているかについて考察する。

《方法》 首都圏の社会人男性（20才代～50才代）225人を対象に、1991年9～10月にアンケート調査を行った。調査内容はスーツに対する意識（25項目、4段階評定尺度）、スーツのイメージ（4服種、SD法、14形容詞対、5段階評定尺度）、スーツの着装とTPO（4服種、7着装場面、4段階評定尺度）である。調査データには因子分析法や双対尺度法を適用し、若年グループ（20・30才代）と高年グループ（40・50才代）を対比しながら検討した。

《結果》 スーツの意識については因子得点の平均値の検定の結果、ビジネスウェア適合性、自由表現性、個性表現性、同調性、開放感性の因子に若年グループと高年グループ間に有意差がみられた。すなわち、若年グループに比べて高年グループは同調性や規範性に影響され、それだけに休日にはビジネスウェアからの開放感も求めている。ダークスーツ、チェック柄スーツ、ソフトスーツ、ブレザー・替えズボンの4服種に対するイメージについては因子分析の結果、フォーマル性と洗練性の因子が抽出された。また、TPOと服種については双対尺度分析の結果、会議、通勤など7着装場面と服種のふさわしさの関係が、若年・高年グループごとにとらえられた。